

2007年度 文部科学省

新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)選定

自分発見型学生支援ネットの構築に向けて

「キャリアデザイン」をプラットフォームとした新たな展開

特集

学生サポートセンター活動

CONTENTS

[HOME](#)[学生支援GPとは](#)[取組のコンセプト](#)[現在の取組](#)[これからの取組](#)[キャリアデザイン・カルテとは](#)[自分発見プログラムの導入実績](#)[自分発見ノートの活用](#)[海外インターンシップ](#)[学生支援フォーラム](#)[学生サポートセンター活動](#)[総括](#)[お問合せ](#)

- [● 2010年 名古屋学院大学クリスマス礼拝](#)
- [● 2010年度 学生サポートセンター活動について](#)
- [● 2009年 名古屋学院大学クリスマス礼拝](#)
- [● 2009年度 学生支援GP講演会「人と人をつなぐ、ことば」](#)
- [● □ 2009年度 学生支援GPIによる講演会ブックレット \(PDF\)](#)
- [● □ 2008年度 学生支援GPIによる講演会ブックレット \(PDF\)](#)
- [● □ 2007年度 学生支援GPIによる講演会ブックレット \(PDF\)](#)

[このページのトップへ](#)

2007年度 文部科学省

新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)選定

自分発見型学生支援ネットの構築に向けて

「キャリアデザイン」をプラットフォームとした新たな展開

**学生サポートセンター活動**

特集	<h2 style="margin: 0;">学生サポートセンター活動</h2>		
CONTENTS			
HOME	<p>学生サポートセンターでは、学生と大学をつなぐパイプ役としてさまざまな学生支援活動を行っています。キリスト教センターの主事であり学生サポートセンターの責任者でもある福井智さんに、同センターの役割や活動内容、活動の目的などを伺い、実際に活動に参加した学生の感想などを聞いてみました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 第1回 教職員インタビュー キリスト教センター 主事 福井智さん (2010年12月22日UP) ● 第2回 学生インタビュー 外国語学部英米語学科1年 トーンチャイムサークル主幹 海口 翼さん (2010年12月29日UP) ● 第3回 学生インタビュー 外国語学部国際文化協力学科1年 古田つくみさん (2011年1月5日UP) 		
学生サポートセンター活動	<p>第1回 教職員インタビュー キリスト教センター 主事 福井智さん</p> <p>学生サポートセンターについて教えてください。</p> <p>学生サポートセンターは、キリスト教センターが展開している機関です。学生と大学をつなぐ相談窓口としての活動をメインに、学生に対するさまざまなサポート活動を行っています。</p> <p>学生サポートセンターには、年間延べ70～80名ほどの学生が相談に訪れます。相談内容は人間関係の悩みから学業の悩みまで多岐にわたるため、まずは牧師である私がスピリチュアルな観点から相談を受け、より専門的な対応が必要だと判断した場合には学生相談室や教員などに連携しています。</p> <p>また、2007年からは学生支援プログラムGPの活動として、宗教講演会や音楽演奏会といった催しにも取り組んでいます。その活動の一環として、CCS(キャンパス・コミュニケーション・システム)を通じてトーンチャイム(※)を演奏するメンバーを募ったところ、8名の学生が集まり、トーンチャイムサークルとして認可されました。現在は12月21日(火)に行うクリスマス礼拝での演奏会に向けて、サークル所属の学生たちと共に猛練習に勤しんでいるところです。</p> <p>トーンチャイムサークルの活動の目的は何ですか。</p> <p>一番大きな目的は、学生同士の交流です。トーンチャイムは一人で演奏する楽器ではありませんから、みんなで演奏することで、仲間との交流とはどういうものかを体験してもらいたいと考えたのです。</p> <p>また、これまで交流のなかった仲間と触れあうことで新たな刺激や発見があり、自分自身を見つめ直す機会になるのではないかとも思いました。さらに、トーンチャイムを通じて音楽的な能力や可能性を見出すことも期待できます。仲間と一緒に楽器を演奏しながら何かを感じ取り、人として成長してもらいたいという思いがありました。</p> <p>クリスマス礼拝演奏会に向けての意気込みをお聞かせください。</p> <p>トーンチャイムの演奏会を行うのは、名古屋学院大学の歴史はじまって以来はじめてのことですので、大学にとっても、演奏する学生にとっても記念すべき日になると思います。練習日が毎週木曜日の4時間目と決まっている中で、それぞれの学生が時間を調整し、メンバーがお互いを思いやりながら練習を継続できました。もともと違う個性を持つ人同士ですから、かみ合わない部分があるのは当然です。でも、学生たちは楽器の音を合わせるように、仲間との関係を調律しながら人の和も技術も高めてきました。クリスマス礼拝では、その成果を存分に発揮できればと思っています。</p> <p>美しいチャペルに響きわたるトーンチャイムの清らかな音色は素晴らしいものです。学生はもちろん、一般の方もぜひクリスマス礼拝にご参加いただき、演奏を楽しんでいただければと思います。</p> <p>※トーンチャイムとは…アルミ製のパイプを叩いて音を鳴らすハンドベルに似た楽器。クワイアチャイムとも呼ばれる。柔らかく透き通るような音色が特徴。</p>		
お問合せ	<p>» 第2回 学生インタビュー 外国語学部英米語学科1年 トーンチャイムサークル主幹 海口 翼さん (2010年12月29日UP)</p> <p>« 開催報告一覧に戻る</p>		



2007年度 文部科学省

新たな社会のニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)選定

自分発見型学生支援ネットの構築に向けて

「キャリアデザイン」をプラットフォームとした新たな展開



特集

CONTENTS

HOME

学生支援GPとは

取組のコンセプト

現在の取組

これからの取組

キャリアデザイン・カルテとは
自分発見プログラムの導入実績

自分発見ノートの活用

海外インターンシップ

学生支援フォーラム

学生サポートセンター活動

総括

お問合せ

2009年名古屋学院大学クリスマス礼拝



12月22日(火)午後5時から名古屋キャンパス白鳥学舎チャペルにおいて「2009年名古屋学院大学クリスマス礼拝」が開催されました。

オルガンが奏でる美しい音色の中、参加者一人一人が手に持つキャンドルに火が点火されるとチャペル内は荘厳な雰囲気へ包まれ、静かに礼拝がはじまりました。礼拝は司式者の聖書朗誦、そして参列者一同によってクリスマスの讃美歌が歌われ、その後歴史のただ中に生まれたイエスと題して、日本キリスト教団八幡ふどうの木教会千葉宣義牧師より説教がされました。

礼拝には学生と教職員のほか、年に一度のこのクリスマス礼拝を楽しむしておられる一般市民の方もたくさん参加され、キリスト教主義大学ならではのクリスマスを参列者一同が楽しめた夜となりました。

聖書朗誦



イエザ書 9章1節

闇の中を歩む民は、大いなる光を見、死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。

一ヨハによる福音書 1章18節

イエス・キリストの誕生は次のようであった。母マリアはヨセフと結婚していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。

一ルカによる福音書 2章1~7節

そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリスト教がシリアルの統督であった時にわざわざ最初の住民登録である。人々は皆、登録をするためにおのれの自分の町へ旅立った。ヨセフもビデーの家に隣人、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのペラヘムというビデーの町へと歩いていった。身ごもっていた、いななづけのアリアと一緒に登録するためである。ところが、彼女がベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

一ルカによる福音書 2章8~20節

その地方で羊飼いたちが宿宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ガリラヤの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあななづけたへのしるしである。」

すると突然、この天使に天の大軍が加わり、神を贊美して言った。

「高い高きところには栄光、神にあれ。
地上には平和、御心に通入あれ。」

天使たちが離れて天へ去了るとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくれたその出来事をようではないか」と話しあった。そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼い葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当たった。その光景を見て、羊飼いたちは、この幼子について天使が語ってくれたことを人々に知らせた。聞いた者は皆、羊飼いたちの話を不思議に思ったしかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の語したとおりだったので、神をあがめ、贊美しながら帰って行った。

一ヨハネによる福音書 3章16~17節

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためにある。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。

説教・祈禱

日本キリスト教団八幡ふどうの木教会 千葉宣義 牧師

歴史のただ中に生まれたイエス

イエスは時代のただ中に生まれましたが、イエスの誕生物語の背景の中で共通しているのは、人に知れずずに生まれたということです。ルカによる福音書には、イエスの誕生を知られたのは野猪ををしている羊飼いと記されています。おそらく当時の社会的環境の中では、最も困難な生活を強いられた人々だったでしょう。現在では世界中がクリスマスを祝っていますが、イエスは人知らず誕生しました。

イエスの生涯は「逆転のメンソ」と名付けることができるのではないかと思います。イエスはガリラヤという地方で病の人を愈し、貧しい人を助めし、罪人のレッセルを張られた人たちを解放したと福音書に記録されています。当時のユダヤの宗教的指導者はこれを恥し、イエスを殺そうと十字架刑に処しますが、そのイエスを多くの人々が信仰していくようになります。イエスは馬小屋で生まれ、多くの人に誕生を知られることなく、そして時支配者のもとに生まれました。

クリスマスには、イエスの誕生の意味について考えることができます。私たちが今あかれている社会は、さまざまなか問題を抱えています。3ヶ月ほど前に新しい政権が生まれ、戦後の年を過ぎて、はじめて民意による政権交代が起ったと報じられています。その民意、私たちの意識をどのように生かし、ひとりひとりが大事にされる社会を一步でも進めることができるか。それが私たちの大きな課題ではないかと思います。ひとことお祈りいたします。



祈禱

神様、今日はこの名古屋学院大学のクリスマス礼拝に参加することができますことを感謝いたします。私たちの時代も混沌とし、さまざまな問題が山積みになっています。困難なところに立ちされた人、貧しいところに立たされた人、苦しい病の中にある人々、飢えと貧しさに苦しめている人々。どうぞ私たちひとりひとりが大切にされる社会を、一步でも進めて行くことができますように。どうぞ私たちの弱い力を支え、願いを少しでも実現することができますように。この大学に集うひとりひとりの学生、日々の生活を守り、導き、それぞれの心中にある使命が十分に達成されますように。このことをからお願いいたします。アーメン

吹奏楽部の学生による演奏

サックス 光田健至「アーマンジングレイス」
フルート 片山三郎「きよしこの夜」
ピアノ 山口智史



祝祷

日本キリスト教団八幡ふどうの木教会 千葉宣義 牧師

今日もまた私たちひとりひとりの命が支えられ、希望を持って生活できますように。願いは飢えと貧しさの中で苦難を強いられている人々に日ごとの糧をそなえ、あなたのお守りと希望が与えられますよう。願わくは病の床にある者、さまざまな苦しみ悩みに直面している人々に愛と慰めが与えられますよう。

名古屋学院大学のクリスマスにおいて、どうかあなたの恵みと愛と和平とが、ここに集う私たちひとりひとりの上にいつまでも豊かにありますように。アーメン



<<開催報告一覧に戻る

2007年度 文部科学省

新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)選定

自分発見型学生支援ネットの構築に向けて

「キャリアデザイン」をプラットフォームとした新たな展開

特集

CONTENTS

HOME

学生支援GPとは

取組のコンセプト

現在の取組

これからの取組

キャリアデザイン・カルテとは

自分発見プログラムの導入実績

自分発見ノートの活用

海外インターンシップ

学生支援フォーラム

学生サポートセンター活動

総括

お問合せ

2010年 名古屋学院大学 クリスマス礼拝



12月21日(火)午後5時から名古屋キャンパス白鳥学舎チャペルで「2010年名古屋学院大学クリスマス礼拝」が開催されました。

オルガンの音色で礼拝が始まると、トーンチャイムサークルの学生によって参列者ひとりひとりが手に持つキャンドルに火が灯されました。チャペルは穏やかな雰囲気で包まれ、優しい笑顔が人々の表情を明るく照らしました。

その後、司式者の聖書朗誦と続き、参列者一同に「メリークリスマス」と題して、山内一郎関西学院元院長・元理事長より説教がなされました。説教の後に、学生サークルトーンチャイムによる本学初のトーンチャイム演奏「We Wish You A Merry Christmas」が披露され、清いかで美しい音色に参列者から大きな拍手が送られました。

恒例となったクリスマス礼拝には学生と教職員はじめ、年に一度のこの日を楽しみにしておられる一般市民の方もたくさん参列され、一同、静かに心あたまるクリスマスを実感する夜となりました。

聖書朗誦



一イザヤ書 9章1節

闇の中を歩む民は大いなる光を見、死の陰の地に住む者に上に光が輝いた。

一マタイによる福音書 1章18節

イエス・キリストの誕生は次のようにあった。母マリアはヨセフと結婚していたが、二人が一緒にになる前に、聖靈によって身ごもっていることが明らかになった。

一ルカによる福音書 2章1~14節

そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリニウスがシリアルの統督であった時に施行された最初の住民登録である。人々は皆、登録をするために自分の自分の町へ旅立った。ヨセフもダビデの家に廻り、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上っていた。身ももっていた、いいなしきのマリアと一緒に登録するためである。ところが、彼女がベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで頭、葉柄ご寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

一ルカによる福音書 2章8~14節

その地方で、羊飼いたちが野宿をしながら、夜遅く羊群の番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が廟宇を照らして、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れくな。わたしは、民全体に与えられる大きさの喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたたのためには救い主があ生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたたは、布にくるんで頭、葉柄の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたたへしめるであろう。」

すると突然、この天使に次の軍がけわり、神を贊美して言った。「高いとこには栄光、神にあれ、地には和平、神に這い人にあれ。」

説教・祈禱

山内一郎 関西学院元院長・元理事長

一メリークリスマス!

クリスマスの本当の意味は、マタイの福音書とルカの福音書に詳しく記されています。聖書では、イエスキリストの誕生の意義について三つのポイントを述べています。ルカによる福音書では「そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た」と物語が始まり、次に「統督キリニウス」という名前が出されます。イエスキリストの誕生の出来事が既に神話やファンタジンではなく、確かに人類の歴史の中で起ったヒストリカルな出来事であることを表しています。また、マタイの福音書には「ヘロデ王」の名前が登場し、キリストの誕生の生年を推定することができます。さらに三人の学者が登場し、彼らが不思議な星に導かれてイエスキリストの誕生をお祝いするのですが、これはある意味で大変コミッカルな状況描写で、クリスマスという歴史的であると同時に、宇宙的な広がりを持った出来事だということを伺い知ることができます。



また、聖書はクリスマスの出来事は単に歴史的、宇宙的というだけでなく、私たち一人ひとりの人生に関わるバーソナルな出来事であったことを協調しています。ルカの福音書では、天使がわんぱくは、すべての人間に大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたたがいたために救い主があ生まれになったとメッセージを伝えます。(あなたたのためには英語では「For You」と強調されています。つまり、クリスマスはあなたたがいた(聖書を読む者)にとって、とても大きな喜びだと告げるのであります。今、私たちにはさまざまな意味で重苦しいこの世に生きていますが、どんな混沌の中心であっても、新しい命の誕生に喜びや希望の光を見出しができるのです。バースデーとは「ゼー」の誕生という意味の現象にとどまらず、一人の命と共に生きていくという意味では、彼女あるいは彼との出会いも喜びであります。

私たちはクリスマスを祝うときに、なぜイエスキリストの誕生を祝うのか?ということを思う必要があります。2000年前に生まれた過去のイエスキリストの誕生を思って祝うのではなく、現在も生き続いているイエスキリストの意味に思いを馳せることができます。クリスマスのできごとは個人の生き方、個人の生涯に無関係ではないのです。神様の働きというのは、あるとき突然私たちの外側から内に働きかけ、そして心を動かして変化が起こることです。現在もイエスキリストが生き続いていることを深く心に刻み、一緒に感謝の祈りをささげましょう。

一祈祷

2000近く前に、人類の歴史のたどりにいたりの人生に関わるバーソナルな出来事であったことを協調しています。どうか私たちが本当に御心を知り、願い私たちの中に本当に希望があるのだということを深く覚えることによって、勇気を持って新しい年を迎えることができますように。そしてクリスマスを感謝することができますように。この宜しき祈りを、2000年前に私たちのために来てくださったイエスキリストのみなによってお捧げいたします。アーメン。

聖書朗誦

一ヨハネによる福音書 3章16~17節

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣されたのは、世を救くためではなく、御子によって世が救われるためである。

学生サークルトーンチャイムによる演奏

一We Wish You A Merry Christmas

海口翼 古田づみ 三浦春香 宮島悠 植村恭介 大坪愛季 堀田郁乃 芳賀千明

祝祷

山内一郎 関西学院元院長・元理事長

願ひば2000年前、私たちのものに来られた主イエスキリスト、汝らを愛み、汝らを守りまえ。願ひば主イエスキリストの御聲をもて汝らを照らし、汝らを導くまえ。願ひば主の御顔を上げて、汝らにまことの平安を与えたまえ。願ひばイエスキリストの恵み、聖霊の親しき交わり、ここに捧げる人々にも、また名古屋学院大学の今のもとめ豊かにあらんことを。アーメン。

トーンチャイム演奏 学生の感想

外国语学部英米語学科1年 主幹 海口翼さん

今まで一番完成度の高い演奏でした。最高のパフォーマンスになったと思います。始まって間もないサークルで新入部員もあるという状況の中、本番はどうなるか心配していましたが、上手くいくて良かったです。もっと部員を増やし、来年はもっと多くの曲を披露できるように練習に励んでいます。トーンチャイムサークルの活動を通じて、部員ひとりひとりが成長できるよう頑張ります。

外国语学部国際文化協力学科1年 古田づみさん

懐のチャペルで演奏できて本当に嬉しかったです。これからも一生懸命練習して、いろいろな曲に挑戦したいです。来年のクリスマスには3曲くらい演奏できるように頑張ります。どんなに部員が増えても、お互いを思いやりながら交流することを一番大切にして活動を続けていきます。

<<開催報告一覧に戻る

このページのトップへ

Copyright © 2008 NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY All Rights Reserved